



創立1880年

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館6階

Tel 03-6302-1960

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

発行所 公益財団法人

東京YMCA

発行人 菅谷 淳

東京YMCA 7・8

2024

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

東京YMCAインターナショナルスクール

アイデンティティと“生きる力”を育てる



▲2023年度から開始されたランチサービス「シーザーズキッチン」。日替わりで各国の料理が提供される



▶充実したライブラリー(図書室)では、自分の英語レベルに適した本を読む



▲中等部の授業の様子

<2023年度在籍生徒の国と地域>

日本	58(人)
韓国	29
中国	27
インド	10
アメリカ	7
南アフリカ	4
香港	3
オーストラリア	2
フィリピン	2
インドネシア	1
オランダ	1
カナダ	1
サモア	1
シンガポール	1
ブラジル	1
マレーシア	1
ミャンマー	1
ロシア	1
合計	151

<東京YMCAインターナショナルスクールの歩み>

学校年度 (school year)	主な出来事
1998年9月～2003年8月	・1998年9月、YMCA International Open-minded School (略称「YIOS=イオス」ギリシャ語で子どもという意味)として東陽町に開校し、K5(年長クラス)と初等部の2学年を開設
2003年9月～2008年8月	・初等部の1学年を開設 ・中等部を開設
2008年9月～2013年8月	・校名をTokyo YMCA International School (略称「T Y I S = タイアス」)に変更 ・初等部がWASC(米国西部地域学校大学協議会)の認証を受ける ・2011年3月に東日本大震災が発生し、生徒数が激減。 ・新しいスクールロゴを採用。 ・K5(年長クラス)と中等部を閉鎖
2013年9月～2018年8月	・中等部を再開。 ・創立20周年を祝い、5年後と10年後に開く2つのタイムカプセルを設置
2018年9月～2023年8月	・中等部がWASCの認証を受ける ・K5(年長クラス)を再開。 ・コロナ禍、オンライン授業を実施 ・ティンバーウルフのスクールマスコットが誕生 ・初めて9年生(中等部)が卒業
2023年9月～現在	・ランチサービスを開始 ・高等部を2025-2026年度に開校することを発表

インターナショナルスクールの意義
東京YMCAがインターナショナルスクール「Tokyo YMCA International School」(以下、T Y I S)を開校して25年が経ちました。しかし、いまだインターナショナルスクール(以下、インター)の存在は一般的にはあまりよく知られていないかもしれせん。母国で暮らす人にとってはインターは恐らく無縁の存在ですが、海外に移り住む家族は、特に英語圏以外では、現地でなく英語で学べるインターを選択することが一般的です。その時初めて、インターは必要不可欠な存在になります。そもそもインターは、日本にきた外国人家族の子弟のための学校です。T Y I Sも、開校当時は両親のどちらかが英語を母語とする子どものみが対象でした。しかし日本も国際化が進み、海外から

の帰国生や将来海外に行く子ども、国際的な環境での子育てを望む家庭の子どもが増えてきました。特に2011年の東日本大震災以降、外国人が日本を離れたことから多くのインターは経営難に陥り、日本人の受け入れが加速化しました。

アメリカの学校であるT Y I S
T Y I Sは日本の文科省認可の学校ではありませんが、アメリカの教育認定機関Western Association of Schools and Colleges (WASC)に加盟するアメリカの学校としての資格があり、国際的な信頼を得ています。また、読書によって英語の理解力を向上させるシステムがあるため、他のインターと違って英語力にかかわらず入学できることが大きな特徴です。インターには親の転勤などで一時的に日本に居住する生徒が多く、転入や転校が頻繁にあります。

全員が転校生のような学校で、卒業を目指す生徒はわずかです。自分も皆に受け入れてもらった経験から転入生を受け入れる文化が根付いており、異言語や異文化に対して寛容な雰囲気があります。T Y I Sのカリキュラムはアメリカのものをベースにしており、日本の教育と大きく異なる点は、暗記型ではなくプレゼン型であること。自分の考えや意見を伝える能力を重視しています。日本の教育では「11112222です。よくできました。では2333は？」となりませんが、アメリカの教育では「11112222ね。正解。ではなぜ2になるのか、あなた自身に考えるのを聞かせて下さい」となりまます。さまざまな意味で予測不能な現代にあって、マニュアルはすぐに通用しなくなり、自分で考え、行動し、問題解決能力を持つ人間であれば、どんな

事が起こっても自分の力で生き抜くことができます。教育も知識力ではなく思考力、判断力、表現力を重視する方針に舵をきっています。そのような状況もあり、インターに通う日本人が増加しているだけでなく、インターの増加や日本の学校のインター化も同時に進んでいます。

自分らしく生きられるように
インターに通う子どもたちは、厳しい環境に置かれていきます。親の転勤などで日本にきたため、自分の意思に反して友達と離れ、新しい文化に慣れなければならないかもしれません。また、英語での授業が理解できるようにするための「自分らしく生きられるように」

は「何者なのか」と思悩む子どももいます。T Y I Sは、国際化が進む中、異文化環境で生きる子どもたちが自分らしく生き、自己のアイデンティティの確立をサポートすることが重要な役割であると考えます。今後も、YMCAのインターとして、世界に目を向け、自分で考え行動を起こせる人材を育成していきたいと思ひます。



赤三角
テクノロジが進化し、生活が便利になる一方で、人と人とのつながりが希薄になりがちです。そんな中、YMCAの活動は「心のつながり」を感じる場面が多くあります。▼私は東京YMCA国際ホテル専門学校卒業生であり、現在は母校で入学相談室を担当しています。特に多いのは高校生からの入学相談で、最近ではインターネットやSNSの情報を進路選びの参考にすることが多くなっているだけに、直接お会いして若者たちと未来を見据えた話をすることに大きな喜びを感じます。進路選択に不安を抱える高校生の悩みや期待に耳を傾け、安心して新たな一歩を踏み出せるようサポートすることを心がけています。▼日々の在校生との関わりの中で、彼らと共に学び、成長する機会を持つことも大きな喜びです。おもてなしの心を共に学び実践することで、将来、彼らがどのような環境におかれても人とのつながりを大切にできる人になってほしいと思ひます。▼YMCAの活動が持つ温かさや人間関係の深さはかけがえのないものであり、在校生や卒業生、そして一人でも多くの入学検討者がYMCAとつながることを願っています。(国際ホテル専門学校AD 横山弥利)

東京YMC A医療福祉専門学校

介護福祉士を目指す留学生

介護ニーズの増加と職員不足

日本では少子高齢化、核家族化、女性の社会進出などにより家族以外の人による介護ニーズが増えています。その一方で介護職員の不足が深刻化しており、政府は積極的に海外からの人材の受け入れを推進しています。

学業とアルバイトの両立

2017年に在留資格「介護」が施行されて以来、東京YMC A医療福祉専門学校でも、国家資格である介護福祉士を目指す多くの留学生が増えています。

指す多くの留学生が学んでいます。2024年度の介護福祉科の留学生は、1年生32人中23人、2年生28人中16人。彼らはミャンマー、中国、ベトナム、ネパールから来日して日本語学校で1年から1年半半学んだ後、選考試験を経て入学しました。過去には、フィリピン、カンボジア、韓国からの留学生もいました。

地道な努力

医療福祉専門学校は厚生労働大臣指定の介護福祉士養成校で、留学生も日本人と同じカリキュラムを同じクラスで履修します。通常の日本語の速度での授業が難しい留学生もいますが、日本人をリードする学生もいて、互いに学び合っています。介護福祉士試験に合格するには相当な勉強が必要で、アルバイトもあまり忙しくない毎日ですが、教師による熱心で丁寧な指導や実習での経験を通して介護の楽しさや奥深さを実感し、国家試験に臨む意欲が高まります。

専門性を養う実習

実習は高齢者や障がい者などの施設で行われ、事情も身体機能もさまざま。通常の日本語の速度での授業が難しい留学生もいますが、日本人をリードする学生もいて、互いに学び合っています。介護福祉士試験に合格するには相当な勉強が必要で、アルバイトもあまり忙しくない毎日ですが、教師による熱心で丁寧な指導や実習での経験を通して介護の楽しさや奥深さを実感し、国家試験に臨む意欲が高まります。

仲間と共に

このように勉強、実習、アルバイトに励む留学生ですが、学校は、仲間を作り充実した時間を過ごす場でもあります。スポーツデイ、ウォークラリー、学園祭、インターナショナルカフェなどの学校行事を通じて、異文化交流や相互理解を深め、留学中の楽しい思い出を作っています。

日本社会全体で支援を

日本の介護は、現在も未来も、留学生が大きな担い手となるでしょう。彼らが学びやすく生活しやすい環境、介護の現場で長く活躍できる待遇や制度の充実のためには、日本社会全体で留学生を支援する必要があります。そして、留学生の努力が実を結び、さらに成長していくことを願います。(広報室)

～ある日の授業より～

実習を終えた1年生がグループごとに振り返りを行い、発表しました。初めての実習から以下のようなことを学び、それらを次回につなげようと大変意欲的でした。

- ・「利用者の望みをできるだけ叶えることで信頼関係が育つと思いました。」
- ・「言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションを活用し、正確に伝えることが重要だと感じました。」
- ・「学校で習った手話でコミュニケーションをとれてうれしかった！」
- ・「傾聴が大切。特に意識したのは、利用者の視界に入ることです。」
- ・「利用者を観察して情報を得ることは大切です。」
- ・「職員と利用者の関わり方が勉強になりました。」



意識が高い介護の担い手を育てる

本校は、介護福祉士を目指す留学生を、高齢者施設の担い手としてしっかりと育てている。カリキュラムの8割は養成校として指定されたものだが、残りの2割でYMC Aらしい学校にしている。留学生と日本人が同じクラスになることは、将来働く環境の縮図でもある。外国人にとって厳しい環境や制度があるのも事実。制度を変えることは難しいが、この学校では、隣の外国人のことを考える意識や気づきを得てほしい。

(東京YMC A医療福祉専門学校校長 小野実)

留学生インタビュー

介護福祉科の留学生に、介護の仕事や将来についての話を伺いました。

日本で介護の仕事を選んだ理由

大学合格後、国の情勢変化で進学を断念。日本語学習中に介護の仕事を知った。初めは祖父母の介護のためだったが、人を尊重し理解する仕事に面白さを感じ、介護の専門学校に進学した。

日本へ留学したかった。父のために介護を習いたかった。高齢者と話すことが好きなので、介護の仕事は自分に合っていると思った

外国で学校や生活の経験をしたかった。親が高齢になった時、介護できるようになるため

もう一度日本に来たかった。介護の仕事を知り、自分にできると思った

日本で大変なこと

漢字。音と訓があるため、読み方が難しい

料理が苦手。食事は留学生仲間で作ってもらう

職場の雰囲気や学校のルール、母国と日本の常識の違いなど

日本語が難しい

学校では試験がたくさんある。バイトと勉強を両立するための時間のやりくりが大変

日本人は一日に何回も挨拶する(「こんにちは」「お疲れ様」など)。母国と異なるのでコミュニケーションに困った

日本で嬉しいこと、楽しいこと

学校に来ること

旅行。日本は旅行する所が多く、景色も良い。最近草津温泉に行った

日本人が優しく丁寧に接してくれること

何でも相談でき、食事も作ってくれる留学生の仲間がありがたい

家族と離れて自由に生活できること

将来の人生プラン

介護が好きになったので、離れたくない。介護の仕事は、体は大変だが、心は大変ではない

母国で旅行する

花屋など、自分の店を開く。母が弱ってきたら、母国に帰って母を介護する

母国に帰って介護を教える

社会福祉系の大学へ進学。日本以外にもいろいろな国に行き、挑戦したい

音楽など、自分の好きなことをする

留学生の本音

優しく声をかけてほしい

しっかり説明せずに「あなたは外国人だから、わからなくてもいい」と言う人がいるが、外国人も日本人と同じレベルで頑張っているので平等に接してほしい

学校のグループワークでも社会でも、「留学生だから」という差別を感じる。日本語が苦手なだけで、人としては皆同じはず



(左から) 林恵子教務・話を伺った留学生のフンさん(1年、出身はベトナム)・チョーさん(1年、ミャンマー)・リュウさん(1年、中国)・リンさん(2年、ミャンマー)・ウェさん(2年、ミャンマー)・ナンさん(2年、ミャンマー)

山中湖センターで 100周年記念事業の お披露目会を開催

100周年の記念プロジェクトを終了した山中湖センターでは7月6日、お披露目会を開催。仲間、家族連れなど11組、44人が参加し、中には10年前のキャンプに参加した、トイレと洗面所を設けて快適になったキャビンでの宿泊も体験していただきました。



大人も子どもも全力で挑むクライミングウォール



マシュマロを焼いてお菓子作り

この会の目的は、募金で新設されたクライミングウォールやアーチェリーレンジをお披露目し、従来から人気のビッグカヌー、ボート、火を使ってお菓子作りとともに実際に楽しんでいただきながら、山中湖センターにつながる人たちの交流の場とすることでした。また、トイレと洗面所を設けて快適になったキャビンでの宿泊も体験していただきました。



キャビン内に設置された洗面所とトイレ



交流が深まった夕食・懇親会

も挑戦意欲を掻き立てられるプログラムです。二日間クライミングウォールに15回くらい挑戦した小学生もいました。今後これらのプログラムにチャレンジするたくさんの子もたちが、「できた！やった！」「悔しい！もう一回！」という気持を通じ、心身のたくましい成長を遂げることに期待を寄せました。

夜の夕食・懇親会は、上田晶平100周年記念募金委員長から改めて募金の感謝が述べられた後、山中湖クイズや山中湖センターはこれからも子どもたちの健やかな成長に寄り添い、人々が集う場として、皆さんと共に未来を築いていくことを願ってやみません。引き続きの応援をよろしくお願いいたします。(広報室)

シリーズ 資料室の窓から(122) 『創立百年記念 フォーラム』

本会元副総主事 齊藤 實

私が東京YMCA資料室で進めている作業は、雑然と集められた過去の諸記録を年月日順に整えることである。きわめて単純な作業なのだが、整理すべく手に

取る資料は年月日順には出てはこない。だから、まとまりをつけて整えても、追加すべき新事実などが出現して、その都度やり直す。しばし、ため息をつくのである。

資料は、紙一枚ものでも個別独立した資料として扱う。事柄別に袋ファイルに収めて分類番号を付ける。さらにその上位の「種別」ごとにファイルボックスに収める。そんな日々を重ねて、いま進めているのは、東京YMCA創立百周年記念事業の諸記録の整理である。

進行中の袋ファイルの数は105となった。これを取り戻すには、大蔵省の損金指定を得て志した百周年記念事業の総額は8億7千万円であった。その中には、神田・山中・野尻の各施設改築費8億3千万円が含まれるから、出版・会議・祝典などは4千万円規模であった。借入金7億円。自己資金5千万円。会費を挙げての募金総額は1億2千万円。こうした概要を見据えておこなわれたのが、「第二世紀への働きに備え

て」と標題を掲げた「東京YMCA創立100周年記念1979年度東京YMCAフォーラム」で、副会長として活躍した。閉会に当たっては、礼拝説教者望月賢一郎牧師のことばを受けて、「クリスチャンである会員は、自分が教会から使命を託されて

ものに飢え、何かを求めている人々に対してYMCAのなすべき使命が第二世紀へのバトン握る今日のわれわれに託されていること。自覚を改めて認識することが大切であろう」と述べた。

YMCAに遣わされているものとの意識を強く持つてほしい」と述べた。あの日から45年経つたいま、私たち東京YMCAは、6年後には創立150年を迎える。

「第二世紀への働きに備える」1979年度東京YMCA会員フォーラム記録

「東京YMCA創立100周年記念1979年度東京YMCA会員フォーラム記録」の表紙

総主事カフェ

東京YMCA総主事 菅谷 淳

総主事カフェによる。先日、管理職向けに、話題となっているChatGPTの研究を行いました。スマートフォンと同様、AIは近い将来、私たちの日常生活に欠かせない存在になると言われています。

ChatGPTは「生成AI」と呼ばれ、自ら創造的な成果を生み出します。例えば、歌詞や画像・動画の生成、文章の校正だけでなく、新しい文章の作成もできます。また、人間との会話も可能で、悩みに寄り添って答えてくれます。いずれ私たちの良きパートナーとして、なくてはならない存在になるかもしれません。

東京YMCAには、このChatGPTを活用するスタッフがいます。彼はスーパーマーケットのチラシをChatGPTに読ませ、「チラシに載っている割引商品を使って、夫婦と小学生・幼児の4人家族の夕食のレシピを考えて」と依頼しました。数秒後には、デザートを含む5つの料理案、購入すべき8つの食材とその合計額が提示されました。「このレシピは栄養バランスを考慮しており、家族全員が楽しめる夕食になるでしょう」とのコメントも添えられて、素晴らしいですね。

ここで重要なのは、その時にYMCAは何をするか、です。人間を超えた人工知能が存在してもなお、人間にしかできないことは何でしょうか。ChatGPTに次の質問をしてみました。「どんなにAIが進化しても人間でなければできないことは何ですか？」回答は次の通りです。

- ①感情の共有と共感：AIは感情を理解することはできませんが、自分で感情を持ち、他の人と感情を共有することはできません。
- ②創造性と芸術：AIはデータを元にして新しい作品を作ることにはできますが、本当に新しく独創的なアイデアや芸術表現を生み出すのは難しいです。
- ③倫理的な判断：AIはプログラムされた倫理基準に従って動作することができますが、複雑な道徳的な問題を直面したときの柔軟な判断や価値観の調整は、人間に頼らなければなりません。
- ④物理的な操作と技能：細かい手仕事や複雑な物理的操作、特定の職人技など、物理的な触覚や熟練が必要な作業は人間の得意な分野です。
- ⑤関係構築：人間同士の信頼関係や深い人間関係の構築は、AIにとっては難しいです。

人間並みの知能を持つAIが登場し、その後急速に進化し、2045年頃には人間の何億倍もの知能を持つAIが現れると予測されています。SF映画の世界が現実のものとなるかもしれません。

人間を超えていくか、それとも人間に追いつかれるか、その答えこそ、ChatGPTではなくYMCAに集まっています。一緒に考えていきましょう。